# 地歴公民（日本史）　東京大学　（前期）　1/1

第１問

5　10　15　20　25　30

Ａ８世紀の太上天皇は天皇と同等の権限を行使したが，平城太上天皇の変を機に太上天皇は太政官組織への権限を行使しなくなった。Ｂ奈良時代にはヤマト政権以来の畿内有力氏族の系譜を引く貴族が世襲的に権力を握り，天皇家を代々支えていたが，平安初期に儀礼の唐風化が進められると，文章経国思想の下で実務能力を身につけた文人貴族が官人として登用され，天皇制を支えるようになった。

第２問

5　10　15　20　25　30

Ａ日宋間の私貿易が活発なもと，陳和卿ら技術に通じた宋人の協力も得て，大陸由来の雄大で豪放な力強さをもつ大仏様で再建した。Ｂ貴賤を問わず勧進を行う重源の要請に対し，奥州藤原氏との対抗上頼朝もこれに協力した。一方，封建的主従関係を結び，地頭として荘園・公領に配置した御家人に，奉公として造営作業を命じた。

第３問

5　10　15　20　25　30

Ａ直轄地長崎で居留民や来航船を統制するなど南蛮貿易を管理しつつ継続したが，島原の乱を機に禁教を強化するため，中国産生糸の入手先をオランダへ切り替える目途が立つと南蛮貿易を断絶した。Ｂ来航禁止措置への報復を危惧した幕府は，直轄の来航地だけでなく，全国の大名に海防の強化への協力を求める必要性を認識した。

第４問

5　10　15　20　25　30

Ａ地租改正事業により，土地所有制度が確立して，農地の売買も可能になった。松方デフレによる地租の実質的負担増や，日露戦争前後の増税を背景に，自作農が土地を手放し，小作地率は増加した。Ｂ戦争長期化にともない，小作契約の不当解約禁止による小作農の地位確保や，供出制のもとでの小作料の制限や生産者米価優遇などの措置により，小作農の生産意欲を向上させ，食糧増産を図った。

© 河合塾 2024 年